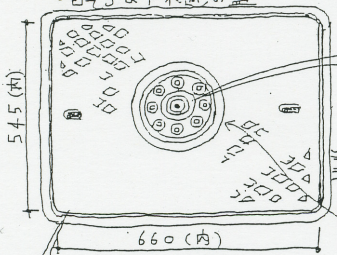
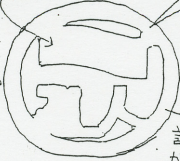


マンホールの蓋・広島市篇

広島市旧市内のほとんどの道路を調査した。採集した蓋は数百枚にもなるが、その中から古そうな蓋、もしくは特徴のある蓋をいくつか選んでまよめしてみた。
 ・広島市のマウ
 ・古そうな下水道の蓋



旧市内のみにあり、右上の物を含めて22枚残っている。



かなりすりへっているの読みづらいが、文字が左から左に書いてある。

数年前、残念ながら字を消した。中区弥生町にあった。

この模様が何を意味しているかは不明
 ヒンジ付が1枚だけある

今の所わかっている蓋と最も古い蓋は大正8年の蓋である。

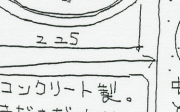
中央部の模様が上の蓋の中心部分と同じになっているのも1枚だけある。

ヒンジ付は2枚だけである。

旧市内のみにあり、5枚残っている。



2枚残っているが、す法から見て、下水かどうかはわからない。



中央のマウが「下」になっているのも10枚残っている。



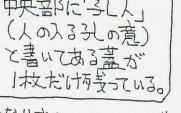
コンクリート製。まだ、たてん残っている。



四角いコンクリート蓋もたくさん残っている。同じマウの向きが違ふもの2種類がある。



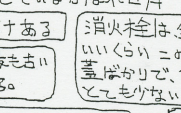
この部分も形が違ふ



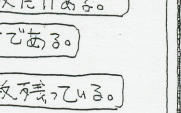
下水道に比べて、上水道は古そうな蓋が多い。

同す模様がタテに4つ(上のは6つ)の蓋がわずかながらある。

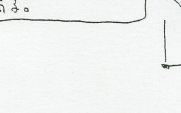
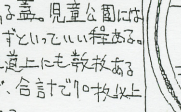
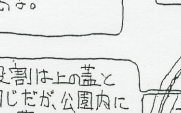
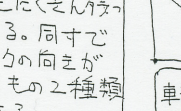
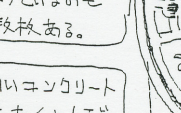
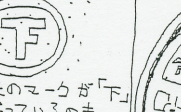
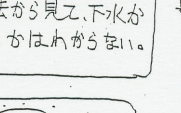
消火栓は全部と言っていいくらいこのデザインの蓋ばかりで、他の蓋はほとんどない。



古い蓋と言っただけではないが、数枚しかない蓋。



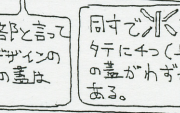
車道にあぶ方火水槽。13枚。



HWWは、HIROSHIMA WATER WORKS (水道) の略。上水栓の蓋に91枚残っている。

足道市に「www」と書かれた蓋がある。(横浜市、新浜市にもある)

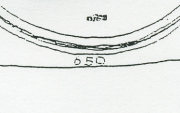
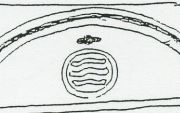
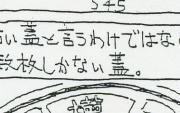
字体は上の蓋と同じだが、HWWの字が入らない蓋は少なく、13枚しかない。ほとんどの蓋にヒンジが付いている。



マウの形、穴の位置が他の蓋とは異なる。古い蓋かどうかはわからないが、たてん1枚しか残っていない。



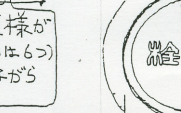
上水栓の蓋が破損したとき、交換に供する蓋。最初はこの蓋だったわけではない。



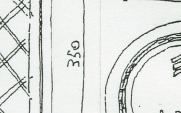
量水器の設置が開始したのは昭和30年頃。この蓋は100個のもの。残存数は少ない。

今一つ多くあるのは同デザインで寸法がタテ200×ヨコ415の蓋。

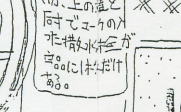
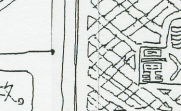
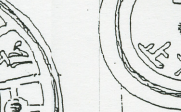
量水器の蓋を設置時にあてては、排水栓ボックスが流用されたらしいが、同様の排水栓はあまり見当たらない。



コンクリート製の量水器の蓋。全国どこにも見ないと思う。13枚ほど確認している。寸法がタテ235×ヨコ435の蓋も1枚だけある。



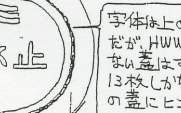
排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。



排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。

今一つ多くあるのは同デザインで寸法がタテ200×ヨコ415の蓋。

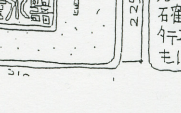
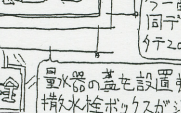
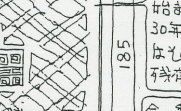
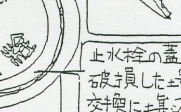
量水器の蓋を設置時にあてては、排水栓ボックスが流用されたらしいが、同様の排水栓はあまり見当たらない。



コンクリート製の量水器の蓋。全国どこにも見ないと思う。13枚ほど確認している。寸法がタテ235×ヨコ435の蓋も1枚だけある。



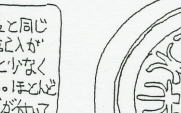
排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。



排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。

今一つ多くあるのは同デザインで寸法がタテ200×ヨコ415の蓋。

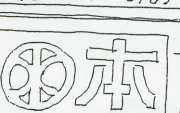
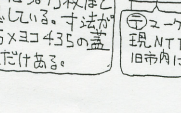
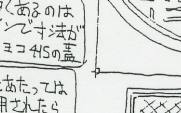
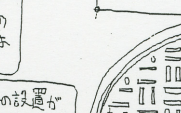
量水器の蓋を設置時にあてては、排水栓ボックスが流用されたらしいが、同様の排水栓はあまり見当たらない。



コンクリート製の量水器の蓋。全国どこにも見ないと思う。13枚ほど確認している。寸法がタテ235×ヨコ435の蓋も1枚だけある。



排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。



排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。

今一つ多くあるのは同デザインで寸法がタテ200×ヨコ415の蓋。

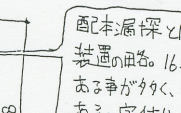
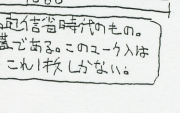
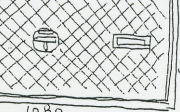
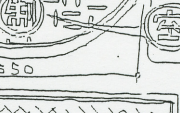
量水器の蓋を設置時にあてては、排水栓ボックスが流用されたらしいが、同様の排水栓はあまり見当たらない。



コンクリート製の量水器の蓋。全国どこにも見ないと思う。13枚ほど確認している。寸法がタテ235×ヨコ435の蓋も1枚だけある。



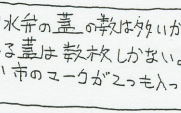
排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。



排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。

今一つ多くあるのは同デザインで寸法がタテ200×ヨコ415の蓋。

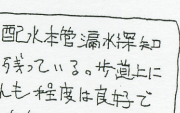
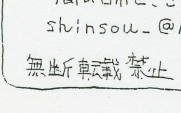
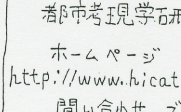
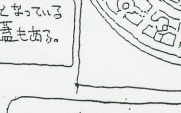
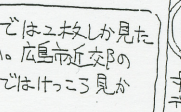
量水器の蓋を設置時にあてては、排水栓ボックスが流用されたらしいが、同様の排水栓はあまり見当たらない。



コンクリート製の量水器の蓋。全国どこにも見ないと思う。13枚ほど確認している。寸法がタテ235×ヨコ435の蓋も1枚だけある。



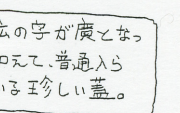
排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。



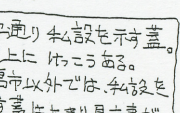
排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。

今一つ多くあるのは同デザインで寸法がタテ200×ヨコ415の蓋。

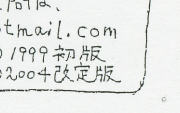
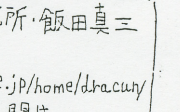
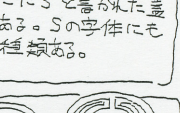
量水器の蓋を設置時にあてては、排水栓ボックスが流用されたらしいが、同様の排水栓はあまり見当たらない。



コンクリート製の量水器の蓋。全国どこにも見ないと思う。13枚ほど確認している。寸法がタテ235×ヨコ435の蓋も1枚だけある。



排水栓の蓋。100個のもの。残存数は少ない。



旧市内編です。これ以外の地域については、合併町村編をご覧ください。
 広島市のマウ。明治29年(1896年)5月19日制定
 旧市町村の旗印であった「三つ引」(三)にヒントを得て、これに川の流れる表現を加え、水都広島を象徴したもの。上下水道も同時期整備。給水管開始は全国最古の古さである。

配水本管漏水探知装置の旧蓋。16枚残っている。歩道にある事が多く、どれも程度は良好である。字体はごちゃごちゃだがなかなか楽しいデザインである。

漏水探知装置の蓋自体は、約1000枚ある。

制水弁の蓋の数は多いが、広の字が横になっている蓋は数枚しかない。加えて、普通入らない市のマウが2つ入っている珍しい蓋。

広大正門跡前に1枚だけあった

文字通り水設を示す蓋。公道にたくさんある。

広島市以外では、半角を指示する蓋はあまり見当たらない。

ここにSと書かれた蓋もある。Sの字体にこの種類がある。

旧市内では2枚しか見た事がない。広島市近郊の市町村にはけっこう見かける。

すは少し違ふが、同様のデザインで中央のデザインがこのような蓋もある。

具の工業用水の蓋。合弁である。

10枚残っていない

2枚しか見つけていない

となっている蓋もある。

都市考古学研究所・飯田真三

ホームページ
<http://www.hicat.ne.jp/home/dracury>
 問い合わせ、質問等は、
 shinsou_@hotmail.com

©1999初版
 無断転載禁止 ©2004改定版

下水道は1896年に着工しているが、昭和20年の空襲被害で、坑口が崩壊、戦後の復興計画によって、古い蓋はほとんど残っていない。